

別紙

株式会社神戸製鋼所 溶接事業部門 生産センター 西条工場 温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社神戸製鋼所 溶接事業部門 生産センター 西条工場

(2) 事業所の所在地

広島県東広島市西条町御菌字6400-1

(3) 業種

2479 その他の金属線製品製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成23(2011)年度を基準年度とし、平成25(2013)年度から平成27(2015)年度までの3年間とする。

3 計画の基本的な方向(環境方針)

当社は、溶接棒の生産を中心とした事業活動において、消費するエネルギーについては使用効率をより高める設備改善を、資源については工程内で発生する廃棄物の抑制、および廃棄物の再利用による資源の有効活用等、種々の環境に配慮した活動を行ってきました。

この環境保全活動を、「地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命である。」と強く認識したうえで将来に渡って持続可能なものとしていくため、今後も事業活動のあらゆる面で、環境保全に配慮し環境関連法規則を遵守した行動をすることをここに決意し、全員参加により下記の取組みを継続的に推進していきます。

- 環境関連法規則の遵守
- 二酸化炭素排出量の削減
- 廃棄物排出量の削減とリサイクル化
- 総排水量の削減
- 化学物質の適正管理
- 環境に配慮した“ものづくり”の推進
- 社会、地域との共生
- 全従業員への周知

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成23年度	直近年度 平成23年度
二酸化炭素	燃料の使用		1,878	1,878
	他人から供給された熱の使用			
	他人から供給された電気の使用		2,924	2,924
合 計			4,802	4,802

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素				
合 計				

※ 定期報告書で「自ら生産に寄与しない量」の区別がなくなったため、エネルギー起源に全て含む。

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成23年度	直近年度 平成23年度
メタン	乾燥炉		2	2
	工場排水の処理		0	0
	ガソリン、ディーゼル機関、他		0	0
一酸化二窒素	乾燥炉		8	8
	工場排水の処理		0	0
	ガソリン、ディーゼル機関、他		0	0
HFC PFC SF ₆				
合 計			10	10

※ 温室効果ガス排出量の数値「0」は、小数点以下第一位の四捨五入でも「0」のため。

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成23年度)	削減目標		目標年度 (平成27年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	4,802	3.0	146	4,656
非エネルギー起源CO ₂				
メタン	2	0	0	2
一酸化二窒素	8	0	0	8
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計	4,812	3.0	146	4,666
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方	エネルギー起源CO ₂ は排出量年1.0%の削減率。前提として生産量は基準年度並みとする。CO ₂ 換算で電力会社の換算係数悪化の影響が大きい場合には、基準年度のCO ₂ 換算係数で再計算して効果を検証する。			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《~~原単位を削減目標とする場合~~》

原単位算定に用いた指標：生産量

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)							
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	灯油の使用量を3%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥炉の炉体補修と保温強化 ・乾燥炉廃熱再利用の検討
2	電気使用量の削減	電気の使用量を3%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・製品搬送動力の低減 ・熱風ファン動力の低減 ・コンプレッサエア一圧の低減 ・上水送水ポンプ圧力の低減 ・設備の待機電力の削減 ・冷暖房温度の適正管理 ・休憩時間の消灯の徹底 ・老朽化更新タイミングに合わせた省エネ型設備への更新
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

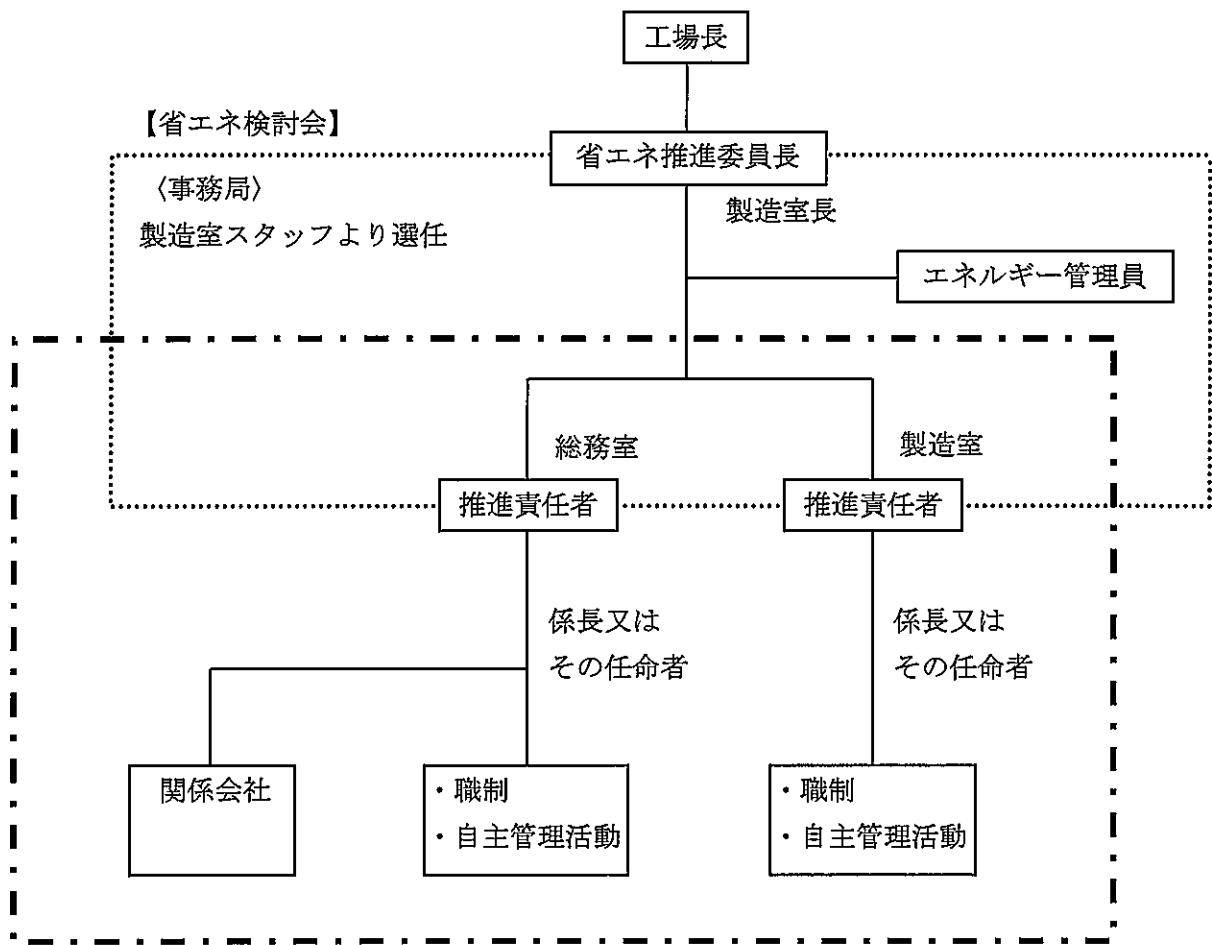
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	エコアクション21		2005年に環境省策定のエコアクション21に登録し、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等に、積極的かつ継続的に取り組んでいる
2	内部環境監査		毎年、工場内部環境監査を実施し、環境改善活動に取り組んでいる
3	グリーン購入	グリーン商品の優先購入 (期平均48%)	コピー用紙、事務用品等でグリーン商品化されている商品を優先購入している
4	工場周辺道路の清掃、緑化		定期的に工場周辺道路の清掃、緑化を実施している
5	環境講演の受講		毎年、環境問題に関する講演の受講により、従業員の環境意識の向上を図っている
6	エコライフノート	エコライフノートの提出 (提出率100%)	家庭でのエコライフノート付やサマーエコスタイルの実施により、従業員の環境意識の向上を図っている

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

年2回行っている工場挙げての「省エネキャンペーン」や「省エネパトロール」等により、省エネテーマの抽出や運用の見直しを計画化し、定期的で開催する省エネ検討会において改善実施の評価やフォローを行い、継続的な向上を図っている。

また、毎年度の取組状況、点検・評価内容については、温室効果ガス削減計画書とともに公表する。

(3) 計画書等の公表

毎年度発行するエコアクション21の中の環境活動レポートと共に、温室効果ガス削減計画内容および進捗状況を事業所に備え付けて閲覧する。